

第 1 章

アクションプランについて

1-1) アクションプランの考え方

1. 本計画書は、可児市公共施設等マネジメント基本計画で示した考え方に基づき作成したライフサイクル計画（ ）のうち、平成 35 年度までを第 1 期アクションプランとしています。
ライフサイクル計画・・・施設が建築されてからこれまでの補修や、今後必要となる補修や更新等の時期、内容、概算費について、可児市公共施設等マネジメントの計画期間となる平成 75 年度までを年表形式にまとめたもの。
2. ライフサイクル計画に示された施設の廃止は政策的に決定されたものではありません。また、補修や更新の時期は、予算の裏付けの基に確定したのではなく、その時点での施設の劣化状況や財政状況及び、市民ニーズの変化によって内容が変わることがあります。
3. 過去の工事履歴は、可児市歳入歳出決算実績報告書及び平成 12 年度以降は、工事検査資料を参考に記載しています。
4. 過去の工事履歴において、部分的な補修となっているなど、以降の修繕サイクルの想定が困難な場合は、施設の建築年を基準とし 15 年毎に補修や大規模修繕を繰り返し計上しています。また、空調についてはその周期を 10 年毎としています。
5. 施設劣化診断調査等により、別途ライフサイクル計画がある場合は、それを優先しています。
6. ライフサイクルコストの縮減について
可児市公共施設等マネジメント基本計画において、長寿命化を検討することとした施設は、更新時期を築 60 年目から 75 年目に延長しています。その際 60 年目に、15 年目・45 年目同様の補修を行うこととしています。
適正規模更新を検討することとした施設は、更新時に現在規模の 20.7%を縮小するものとして算出し、以後の補修についても、20.7%縮小としています。
複合・集約廃止を検討することとした施設は、築 60 年目までに取り壊すものとし、ライフサイクル計画上は原則築 60 年目に実施することとしています。
7. 工事費は、 m^2 当たりの概算単価で算出しており、かかる費用のおおよその目安としています。

1-2) 概算単価について

(表 1)

	部位	工事周期(年数)			工事単価(千円:m ² あたり)		
		補修年	大規模改修年	更新年	補修単価	大規模改修単価	更新単価
学 校	躯体	-	-	60	-	-	260.0
	外部	15	30	-	9.7	12.5	-
	内部	15	30	-	5.0	19.8	-
	電気	15	30	-	3.8	5.2	-
	給排水	15	30	-	1.5	6.1	-
	空調	10	20	-	2.2	8.8	-

(表 2)

	部位	工事周期(年数)			工事単価(千円:m ² あたり)		
		補修年	大規模改修年	更新年	補修単価	大規模改修単価	更新単価
学 校 以 外	躯体	-	-	60	-	-	260.0
	外部	15	30	-	12.5	12.5	-
	内部	15	30	-	5.0	19.8	-
	電気	15	30	-	3.8	5.2	-
	給排水	15	30	-	1.5	6.1	-
	空調	10	20	-	4.6	18.5	-

更新単価の算出方法

可児市の公共施設の新築工事(増築含む)のm²当たり単価に物価指数()を乗じています。名古屋地区におけるRC構造物建築費用に関する物価指数

で算出した単価のうち、最高・最低単価を除き平均値を算出します。

で算出し単価に解体費用(23.5千円/m²)を加算した額を更新単価とします。

大規模改修単価の算出方法

可児市における改修工事の設計単価の各部位毎(外部・内部・電気・給排水、空調)のm²当たり単価から最高・最低単価を除いた平均値を大規模改修単価とします。ただし、学校の空調は、屋内運動場及びプール施設を除いた校舎面積で算出しています。

補修単価の算出方法

大規模改修単価の1/4とします。ただし、

- ・学校の外部は、外壁のみ1/4とします。
- ・電気設備は受変電改修のみ1/4とします。

単価算出は、平成25年度時点を基準としています。

1-3) 第1期アクションプランのまとめ

平成35年度までのライフサイクル計画

(表-3)

上段：計画 下段：実績 単位：百万円

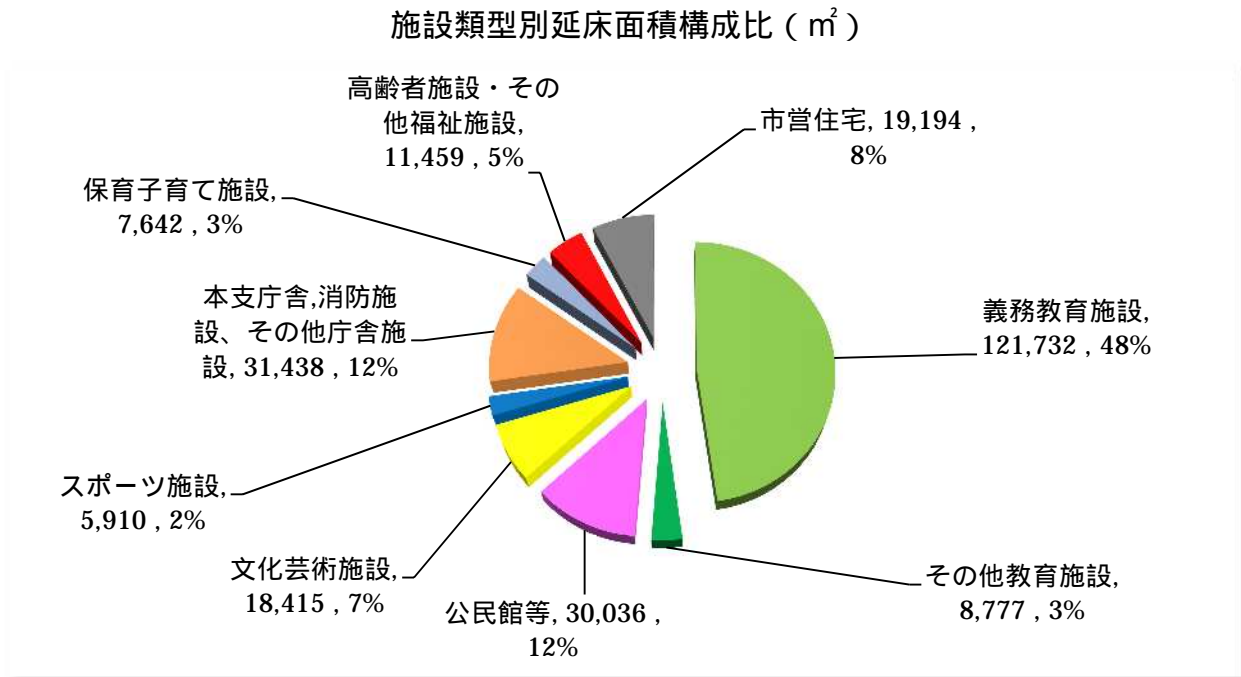
	過年度()			計 画							合計
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	
義務教育	378	583	131	244	424	332	655	409	284	482	3,922
施設	383	549	128								1,060
その他の	108		81	17	78		8	1	106	11	410
教育施設	21	50	69								140
公民館等	55	76	148	1	535	88	340	253	5	92	1,593
	105	66	68								239
文化芸術					1,903						1,903
施設	223	10	37								270
スポーツ			17					55	2	202	276
健康施設			70								70
本支庁舎			49	12	116	343				128	648
	5	12	30								47
消防施設		31		27	6	18	1	2	6	2	93
		31	2								33
その他の			1,353	2,052				10	11	1	3,427
庁舎施設			1,353								1,353
保育子育て施設	22	24	62	53	149	32	18	1	39	15	415
	13	1	62								76
高齢者用施設	12		2	1		10	137		33	21	216
	20	1	2								23
その他の福祉施設					36	1	150			120	307
		2									2
公営住宅	73	89	71	61	40	13	11	41	160	10	569
	73	63	71								207
工事費	648	803	1,914	2,468	3,287	837	1,320	772	646	1,084	13,779
	843	785	1,892								3,520
工事費計	13,779 (実績費 3,520)										

過年度の工事实績について

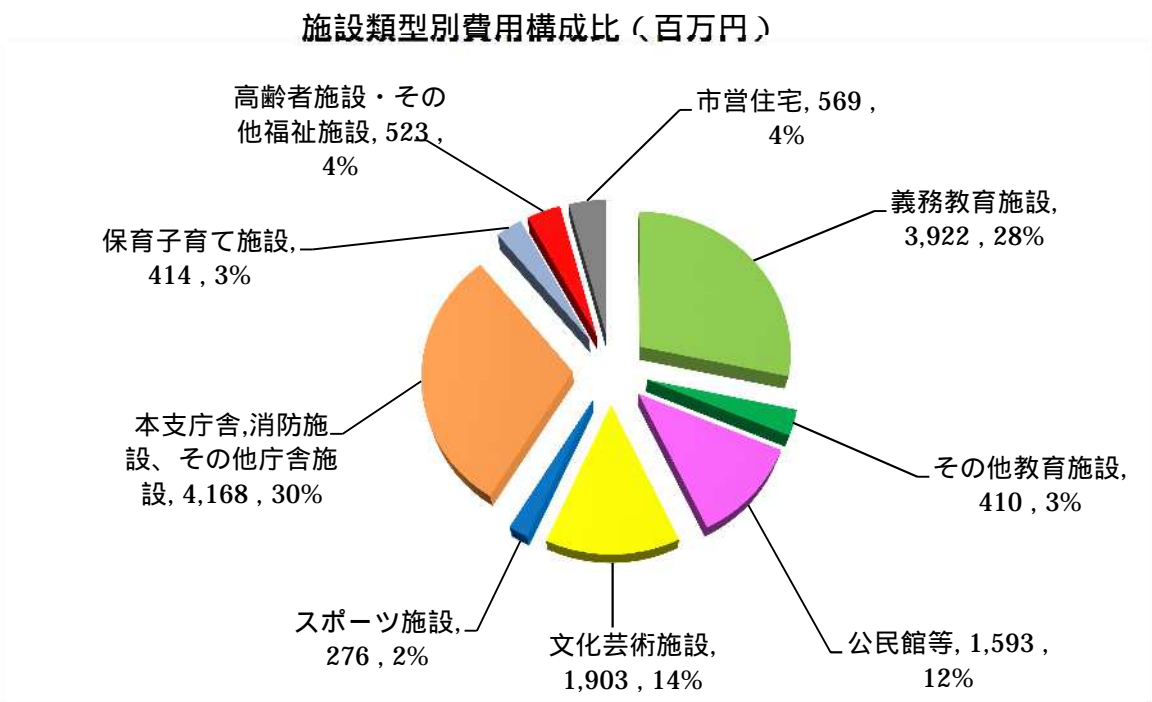
H26年度・H27年度については、50万円以上の工事实績について計上しています。またH28年度は事業の当初予算額を暫定実績費としています。

可児市公共施設等マネジメント第1期アクションプランでは、総額 137 億 7,900 万円が必要となり、これまで 35 億 2,000 万円を支出しています。

(図 1)



(図 2)



施設に要する費用が施設面積に比例すると考えた場合、図-1、図-2 から第1期アクションプランにおいては、文化芸術施設及びその他庁舎施設に多くの費用を要し、反対に義務教育施設が少額となっています。その他の施設分類は概ね面積比に応じた費用となっています。

第1期アクションプランの主な維持修繕内容

(1億円以上の事業を記載)

平成 26 年度（実績）	
文化創造センターの音響設備の更新を実施しました。	2 億 2 千万円
市内の中学校に空調を設置しました。	2 億 8 千万円
平成 27 年度（実績）	
市内の小学校に空調を設置しました。	5 億 5 千万円
平成 28 年度（実績）	
（仮称）駅前拠点施設を建設します。	13 億 5 千万円
平成 29 年度	
（仮称）駅前拠点施設を建設します。	20 億 5 千万円
平成 30 年度	
蘇南中学校の北舎、中舎、特別教室棟の大規模改修。	3 億 3 千万円
文化創造センターの 15 年目の補修及び、特定天井の耐震補強。	19 億円
下恵土公民館の大規模改修。	1 億円
帷子公民館の大規模改修及び、特定天井の耐震補強。	1 億 9 千万円
平成 31 年度	
桜ヶ丘小学校の南舎、北舎の大規模改修。	2 億 4 千万円
市庁舎西館の空調の更新。	2 億 9 千万円
平成 32 年度	
広見小学校の北舎、南舎の大規模改修。	1 億 5 千万円
南帷子小学校の大規模改修。	3 億 1 千万円
西可児中学校の 45 年目補修。	1 億 8 千万円
広見公民館の大規模改修及び特定天井の耐震補強。	2 億 8 千万円
可児川苑の大規模改修。	1 億 4 千万円
L ポートの大規模改修及び特定天井の耐震補強。	1 億 1 千万円
平成 33 年度	
東可児中学校の大規模改修。	3 億 5 千万円
桜ヶ丘公民館の大規模改修及び特定天井の耐震補強。	2 億 2 千万円
平成 34 年度	
今渡北小学校の大規模改修。	2 億 8 千万円
瀬田市営住宅の大規模改修。	1 億 5 千万円
平成 35 年度	
中部中学校の大規模改修。	4 億 8 千万円
運動公園スタジアムの人工芝の更新。	2 億円
市庁舎東館の 15 年目補修。	1 億 3 千万円
福祉センターの 45 年目補修及び特定天井の耐震補強。	1 億 2 千万円